

2008 年度

科目名 生物学 A	対象学科・学年 文学部全学科 1 回生 人間人社 1 回生	担当者 三浦 和彦
授業テーマ 生物とそれを取りまく世界: 生物と「環境」		
授業の概要と目標 みずからの環境条件を激しく変化させてきた人類の現在を理解するために、生物とその環境との 40 億年ちかくの歴史を振り返る。単細胞生物の誕生に始まり、多細胞生物の多様な分化と、その系統をたどる。これらの舞台である地球システムを生物の視点から眺めることにより、「暮らし」と環境とのダイナミックスを理解し、みずから分析可能になるよう学習することを目標とする。		
評価方法 通常の講義時の小レポートと小テストで評価する。		
テキスト 環境再編 (エコ・リストラクチャリング)	著者 国連大学編	出版社 創芸出版
参考書 里山の自然	著者 田端 英雄 編著	出版社 保育社
授業スケジュール・内容 前期予定 : 生物圏と『環境』 第 1 回 生命の相互作用: 生命の誕生を「主体－客体」関係の誕生としてとらえてみよう。 第 2 回 相互作用系: 細胞の構造と生命のメカニズムにおいて相互作用について考えてみよう。 第 3 回 「環境」の誕生: 「作用と反作用」および「環境形成作用」とはどういうことなのだろうか。 第 4 回 「環境」の変化と生命の進化: 生命にとって大気は何であったのだろうか。 第 5 回 「環境」の変化と生命の進化: 生命にとって水とは何であったのだろうか。 第 6 回 「環境」の変化と生命の進化: 生命にとって土壌とは何であったのだろうか。 第 7 回 原核生物の誕生と適応的放散 第 9 回 真核生物と藻類 第 9 回 真菌類 第 10 回 植物と動物 第 11 回 環境王としての物理化学的諸要素にはどんなものがあるのだろうか。 第 12 回 環境王としての生物圏: 生物は他の生物にとって邪魔者なのだろうか、協力者なのだろうか。 第 13 回 環境王と生活史: 発育段階理論からみると生物にとって生存リスクとはいかなるものなのだろうか。 第 14 回 成長曲線とポピュレーション: 生存とか繁栄というのはいかなる成り立ちで生起することなのだろうか。 第 15 回 資源生物の管理: 実際に絶滅しつつある生物種をわれわれは救えるのだろうか。		